

授業公開報告

教育学部 会 沢 信 彦

1. 科目名、公開日時、教室、対象

*科目名：「教育心理学概論」

*公開日時：2009年11月10日（火）1時限

*教室：13201教室

*対象：教育学部心理教育課程1年生（必修）118名

2. 科目全体のねらいと内容

本科目は、心理教育課程1年生を対象とした必修の専門科目であり、幼稚園および小学校の課程認定を受けた教職科目ともなっている。

科目設置の本来の趣旨は、文字通り、教育心理学の全般にわたって概論的な内容を講義することなのであろうが、本年度は実際には「発達」「学習」「動機づけ」「パーソナリティ」の4領域のみを扱った。

3. 公開された授業の内容と流れ

(1) 内容

「発達」領域の最終回（5回め）として、ピアジェの認知発達理論とフロイトの心理・性的発達理論について取り上げた。

なお、教育心理学の主要分野とは言え一領域に過ぎない発達に5回を費やすのはややバランスを欠いていると思われる。今後は4回にとどめたいと考えている。

(2) 流れ

- ① 教員入室（8:58頃）
- ② 1人ひとりに手渡しで出席カード配付（9:00～9:03頃）
- ③ 授業開始の挨拶（「おはようございます」と唱和）（9:04頃）
- ④ 参観者（留学生）の自己紹介（9:04～9:08頃）
- ⑤ 前回の感想紹介（9:08～9:15頃）
- ⑥ 講義（9:15～10:22頃）
- ⑦ 出席カード（感想等）記入（10:22～10:28頃）
- ⑧ 授業終了、出席カード提出、解散（10:29頃）

4. 実践上の工夫と課題

紙数の関係で2点に関してだけ述べたい。

(1) グループ学習の導入

教員が4人（一部5人）のグループを編成し、グループごとに座席を指定して受講させている。その際、児童心理教育、幼児心理教育両コースの学生が混じるようグループ編成

を行っている。また、学期に2回グループ替えを行い、学生は学期中に3つのグループ（第1回～第5回：第1次グループ、第6回～第10回：第2次グループ、第11回～第14回：第3次グループ）に所属することとしている。なお、本時は第7回なので、学生にとっては第2次グループでの2回目の授業である。

講義中に適宜グループでの短い（1～3分程度）シェアリングや意見交換の時間を設けている。

なお、授業最終回の授業アンケートにおいて、このシステムに関する評価を5段階（「非常に良い」5点～「非常に良くない」1点）で記述させたところ、多くの学生が4または5と述べていた。その理由としては、「他コースの学生と仲良くなれる」というものが多かった。すなわち、学生は人間関係を築くきっかけになるという点でこのシステムを好意的に受け止めている様子が伺えた。

ただ、このシステムが学習効果の点でどれほどの成果を上げているのかについては、詳細な検討が必要であろう。

(2) 板書中心の授業

近年はプレゼンテーション用ソフト（パワーポイント）を用いた授業が増えているように感じられるが、昨年度の報告書でも述べた通り、筆者は依然として、小・中・高校における（多くの）授業と同様の、板書を中心とした授業を行っている。参考資料は配付するものの、レジュメすら用いていない。

短時間に多くの情報量を伝達するためには、レジュメやパワーポイントは欠かせないツールであると言ってよい。しかし、昨年度も述べたように、単発の講義や講演と、14回の“長期戦”となる授業とでは、その性格が異なると思われる。つまり、授業においては、消極的には学生も教員も息切れしないために、そして積極的には学生の思考を深めるために、適度な“間”やゆとりが必要だと筆者は考えている。その点、板書しながらの講義は、まさに「適度な“間”やゆとり」を生み出すのにちょうど良いスピードであると感じられるのである。

しかし、「適度な“間”やゆとり」を重視すれば、その分情報量が少なくなることは否めない事実である。学生の思考を促進させる“間”やゆとりを大切にしつつも、過不足無い情報を伝えるための工夫が必要であると、最近強く感じている。

平成 21 年度 授業公開 授業計画書

2009 年 11 月 10 日(火)1 限

学部	教育学部 心理教育課程	授業者	会沢 信彦		
授業科目名	単位数	講・演・実	年次	公開教室	
教育心理学概論	必・選 (2)	講義	1	13201	
本時の目標 幼児期から青年期の発達の概要を理解すること。					
本時の内容(予定) 1 幼児期の発達 (前回の続き) 2 児童期の発達 3 青年期の発達——アイデンティティーを中心に					
本時の展開 1 出席カードの配付 2 挨拶で開始 3 上記内容について講義 4 出席カード記入 5 終了 なお、学生を 4、5 人のグループに分け、座席も指定して受講させている。グループ分けは教員が行い、必ず児童心理教育コースと幼児心理教育コースの学生が混ざるようにしている。第 1 回から第 5 回までを同一のグループ (A グループ) とし、第 6 回 (前回) にグループ分けを再編成 (B グループ) した。講義時間内に、適宜グループで意見交換をさせる時間を設けている。					
本時の評価の視点(参観の視点) 1 授業全体の流れについて 2 板書を中心とした講義方法について 3 グループで受講されることの効果について					